

カールスルーエのクラインガルテン (ドイツ・ゼーヴィーゼン地区)

文：大村謙二郎(筑波大学大学院教授)



周辺の高層住宅とクラインガルテン

ドイツは19世紀半ばごろから、労働者の食糧自給、健康増進、青少年の健全な発展のためにクラインガルテンを整備してきた長い歴史がある。ドイツ全体では2007年現在、124万区画のクラインガルテンがあり、利用人口は500万人を数える、都市住民の重要なレクリエーション施設として位置づけられている。ドイツ最大のクラインガルテン組織である連邦ドイツ菜園愛好連合会(Bundesverband Deutscher Gartenfreunde (BDG))が2006年に行ったコンペにおいて、優れたクラインガルテン施設として金メダルを受賞したカールスルーエ市のクラインガルテン、ゼーヴィーゼン(Seewiesen)地区を紹介する。

カールスルーエ市(人口28万9000人:2007年末)は、工科系の歴史のある総合大学、最高裁判所、憲法裁判所などを有

する、オーバーライン地域の中心都市である。都市計画的にはお城を中心として扇形に広がるバロック都市として有名であり、ドイツの名高い保養地シュバルツバルトの北部に位置する都市でもある。

ゼーヴィーゼン地区は、カールスルーエ市郊外の田園都市リュブヴァー(Rueppur)地域に近接している。このクラインガルテンを運営管理する協会は1929年に設立されたもので、歴史の長い由緒ある施設である。総面積は4.3haで、そのうち各利用者が使うクラインガルテン区画部分の面積は3.8ha、クラインガルテン区画数は128区画。土地の所有は市に属しており、協会が市から賃貸を受けて施設を管理・運営し、さらに各利用者にクラインガルテンが利用権賃貸されるという形になっている。施設は緑豊かな住宅地に近接し、さらに周辺の緑地と結びついて、カー



共用施設で談笑する地区の高齢者



工夫を凝らしたクラインガルテン利用



ゼーヴィーゼンクラインガルテン入り口



協会の掲示板



クラインガルテンと後方の高齢者施設

ルスルーエ市の緑地・オープンスペースシステムを構成する重要な要素となっている。

ゼーヴィーゼン地区は公共交通=路面電車からのアクセスのいいところにある。クラインガルテン利用者の3割は徒歩でこの地区にやってきている。クラインガルテンの特性上、利用者の大半は、自宅に庭をもたない集合住宅居住者である。

筆者は2008年7月26日の夕方、この地区を訪問した。この日は地区周辺の高齢者を招いての懇親会が開催され、共用施設に歓談の場が設けられていた。たまたま、同席していたゼーヴィーゼンクラインガルテン協会の副会長さんからいろいろお話を聞いたところ、このクラインガルテン施設は、長い伝統のなかで利用者の交流も親密であり、人気が高く空き待ち状態とのことだ。ま

た、比較的若いファミリーの利用が多いが、長年利用している人の比率も高い。地元の高齢者施設などとの交流も盛んで、クラインガルテンが社会的ネットワークの拠点として機能している。年間のクラインガルテンの利用費用は、おおよそ450ユーロで、各区画の面積は300㎡程度という。

地区内を見て回ったが、各利用者が思い思いに工夫を凝らしながら、美しくクラインガルテンを利用しており、家族でバーベキューや水遊びをしているところもあった。ドイツの長い夏の日の夕方をゆったりとした気持ちで楽しんでいるようすを見て、クラインガルテンが都市住民の日常的な貴重なレクリエーションの場として定着していることを実感できた。